



平戸市長
まつお ゆうじ
松尾 有嗣 氏(50)

【略歴】
平戸市川内町生まれ。平成10年3月に久留米大学法学部を卒業。大学卒業後は22歳で国会議員秘書となり、うち25年間、厚生労働大臣や参議院議長を歴任した尾辻秀久参議院議員の秘書を務める。



11月6日、市民の皆さんや職員の温かい拍手に迎えられ、笑顔で初登庁された松尾市長

未来をひらく!きずなを結ぶ!平戸!!

市長就任あいさつ

このたび、平戸市長として市政を担わせていただくことになりました、松尾有嗣です。

まず何より、この歴史と自然、そして人の温かさに包まれたふるさと「平戸」で、皆さんと共にまちの未来をつくる仕事ができることに、心から感謝申し上げます。

私は28年間、国会の現場で政策の最前線に立ち、国と地方をつなぐ仕事に携わってまいりました。その中で常に胸にあったのは、「いつか必ず、故郷平戸のために力を尽くしたい」という思いでした。

いま、その原点の地に立ち、こうして平戸市長として新たな一歩を踏み出せることを、心から誇りに思います。

今回の選挙で掲げたキャッチフレーズ「未来をひらく!きずなを結ぶ!平戸!!」、この言葉には、二つの強い思いを込めています。一つは「挑戦」、もう一つは「つながり」です。私たちは、変化を恐れず挑戦しなければなりません。そして、市民と市職員、地域と行政、産業と教

育、そのすべてがつながり、力を合わせていくことでこそ、平戸の未来は切り開かれます。

これからの平戸をつくるのは、誰か一人の力ではありません。市民の皆さん、そして市の職員の皆さん、一人ひとりの思いと行動の積み重ねが、平戸の未来を形づくりします。

私は、市民の声に耳を傾け、現場に足を運び、皆さんとともに考え、実行する「開かれた市政」をつくってまいります。

そして、市職員の皆さんには、どうか変化を恐れず、新しい発想で、平戸をより良くするために一歩を踏み出してください。私もその先頭に立ち、全力で支え、共に汗をかいてまいります。

ふるさと平戸のために、力を合わせ、「誇れる平戸、選ばれる平戸」を必ず実現してまいりましょう。どうぞ、これからよろしくお願いいたします。

松尾新市政、始動!

松尾市長訓示

10月19日に執行された平戸市長選挙で、新市長に当選した松尾有嗣氏が、11月6日に初登庁しました。

その後、議場で行われた市長訓示で松尾市長は、「市長として「現場主義」を貫きます。机上の議論ではなく、現場の声に耳を傾け、職員とともに汗を流しながら政策をつくっていきます。市役所の主役は市長ではなく職員の皆さんです。皆さんが市民の声を受け止め、支え、励ましなから、まちの暮らしを守ってききました。私は皆さんを「部下」ではなく「仲間」として見えています。市長室は常に開かれていますので、現場の課題や提案を遠慮なく届けてください。違和感や改善のアイデアこそが市政の原動力です。これからの行政には「前向きな創造力」が求められます。「言われたことをこなす行政」から「自ら考え、動く行政」へ。私はその先頭に立ち、風通しの良い職場、誇りある組織を皆さんと築いていきます。市役所は産業の伴走者であり、職員が生産者と課題を共有し、解決策を形にする行政こそ地方自治の姿です。ここに住んでよかったと思える笑顔を増やすためにも、市民に寄り添う行政でありたい。「正確に、誠実に、スピード感を持って」を市政運営の基本と考えています。職員の皆さんにも市政の最前線に立つ誇りを持つてほしい。

私の座右の銘は「飲水思源」です。私たちが今ここにいるのは先人の努力と市民の支えのおかげです。その恩に報いるためにも、私たちは今、次の世代のために働かなければなりません。市長一人では何もできません。職員一人ひとりの知恵と力が合わされば、どんな壁も乗り越えられます。共に前へ、共に未来へ向かって取り組んでまいりましょう」と、職員に対し力強く訓示を述べました。



▲本庁1階で行われた初登庁セレモニーの様子

黒田市政 16年間の主な記録



平成22年4月から平戸大橋・生月大橋の通行料が無料化され、市民生活や観光の利便性が向上しました。



オランダ東インド会社の貿易機能としての商館設置が認められ、平成23年に復元した平戸オランダ商館が開館しました。



平成26年度のふるさと納税寄付額が約14億6,000万円に達し、全国1位になりました。



平成25年10月にイギリス大使のティム・ヒッチنز閣下をお迎えし、平戸英国商館設置400周年記念式典を挙行了しました。



長崎県の産炭地振興基金を活用し、平成24年2月、平戸産に拘った産直市場「平戸瀬戸市場」をオープンしました。



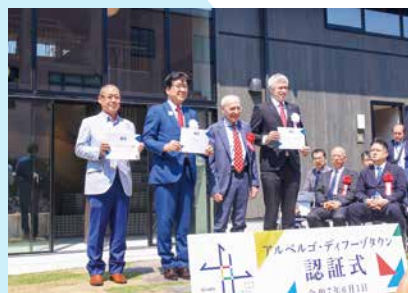
平成25年7月に鄭成功記念館が開館し、平成28年9月には記念館に続く参道の入口として鄭成功記念館山門が完成しました。



平成27年8月に平戸図書館が平戸市未来創造館(COLAS平戸)として移転・新築されました。



平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が念願の世界文化遺産に登録されました。



令和6年度に城下町・田助エリアを整備し、令和7年6月に世界初のアルベルゴ・ディファーズタウンとして認証されました。



インバウンド戦略として観光庁との協議を経て、令和3年4月に日本初の城泊事業を開始しました。



医師の偏在を是正するため、長崎大学医学部との連携を軸に平戸市の医療提供体制の支援を行ってきました。



11月5日、職員の胴上げで送り出される黒田市長

16年の歩みに、心からの感謝を

黒田市長退任

16年間平戸市行政運営に当たってきた黒田市長が、任期満了に伴い、11月5日をもって退任し、同日議場で退任式が行われました。

松田副市長が職員を代表して「市長の就任以降、平戸市のブランドイメージは大きく変わり、ふるさと納税や各種事業を通じて全国的にも注目を集めました。人口減少という課題に対しても、市長の強い思いと行動力がさまざまな施策に表れ、職員にも大きな刺激を与えてくださいました。『歴史』『祈り』『恵み』を軸とした市政は、国内外との交流や地域資源の活用など、多くの成果を生み出し、市議会での答弁や政策協議では、誰もが思いつかない視点と情熱に満ちた姿勢に、私たちは多くを学び、市長の背中を追い続けた日々は、職員にとってかけがえのない宝物です。今後は新たな市長のもと、新しいページを刻んでまいります。黒田市長のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。ごさいますとあいさつしました。

黒田市長から市民の皆様へ

私は去る11月5日をもって平戸市長を退任いたしました。ここに改めて皆様方のご支援ご厚情に對しまして厚くお礼を申し上げます。

振り返りますと、今日までの4期16年の歳月は、私にとって貴重な体験であり、市民の皆様にとりましても激動の年月であったと思います。

平戸市は合併から20周年の節目を迎えました。しかし一方で、時代の流れは否応なく変化を求めており、今後も行政課題は押し寄せてきます。特に地域を支え合う仕組みを持続可能なものにしていくために、安心安全を保障する防災や医療、交通政策などはとても重要な課題です。次代を先取りした政策構築は困難で、骨の折れる業務ではありますが、市民の皆様が新しい市長の元で団結し、困難の壁を打ち破って道を切り開いてほしいと強く望んでおります。

結びに、今後とも平戸市が、かけがえない歴史や伝統文化を確実に継承し、明るい未来に向かって輝き続け、国内外を問わず多くの皆様に選ばれ続けられる自治体として発展しますこと、そして市民の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、退任の挨拶といたします。